

2022 年度第 2 回支部集会【北海道支部】 開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

共催：北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部・北海道日本語教育ネットワーク

開催日：2022 年 7 月 9 日(土)13:30-16:30

会場：北海道大学学生交流ステーション

参加者：29 名（会員 22 名、一般 7 名）

2022 年度第 2 回支部集会【北海道支部】を、7 月 9 日(土)に、北海道大学にて開催しました。昨年度と一昨年度はオンライン開催であり、3 年ぶりの対面開催となりました。日本語教育学会はじめ、多くの学会活動がこの 2 年ほどはほぼオンライン開催であったため、学術的発信と交流を対面で行う意義をあらためて確認する場としたいと考え、会場での開催に踏み切りました。第 1 部はポスター発表と交流ひろば、第 2 部は参加者によるビブリオバトルという構成でした。

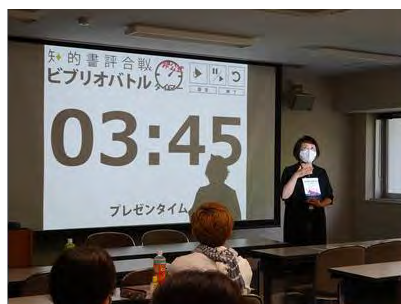
ポスター発表と交流ひろば各 2 件で、教育実践における新たな取り組みに関する報告と、介護従事者の学習支援に関するサイト開発の報告がありました。計 4 件の発表に対し、来場者は 30 名程度で、非常にコンパクトな開催となりました。ポスター発表も交流ひろばも、発表者と近づいて情報交換できてこそ意味があるものなので、密集してしまうことを懸念していましたが、結果的には、参加者の方々がほどよく分散し、それぞれで積極的な意見交換が行われていました。

ビブリオバトルでは、「日本語教育にかかわる人におすすめの本」というテーマで 4 冊の本が紹介されました。①羽藤由美『英語を学ぶ人・教える人のために - 「話せる」のメカニズム-』（世界思想社）②牲川波都季編『日本語教育はどこへ向かうのか 移民時代の政策を動かすために』（くろしお出版）③淡交社編集局『茶の湯英会話』（淡交社）④野田尚史・野田春美『＜アクティブラーニング対応＞日本語を分析するレッスン』（大修館書店）が順に紹介され、最多票を集めた④が「チャンプ本」に選ばれました。

発表を離れての交流も会場のあちこちでみられましたが、これはオンラインではできないことであり、学会という場は発表と質疑応答だけで成り立っているのではないことをあらためて痛感しました。開催後アンケートでも「対面開催がよい」との意見が多くみられました。今後も対面を基本としつつ、オンラインも取り入れた支部集会のありかたを模索していきたいと思えます。



交流ひろば



ビブリオバトル

(報告者：支部活動委員 山路奈保子)